



実りの秋へ向けて

校長 江渡 準 悦

秋が次第に深まるこの季節は、実りの秋と称されます。気候も穏やかなうえ、春から夏にかけて育ってきたさまざまな作物や穀物が収穫され、四季の中でも満ち足りてとても豊かな季節だからでしょう。

さて、子どもたちは、ここまで自分なりの目標をもって、学習や運動、仲間づくりなどに励んできています。その中で、「実りの姿」としてぜひ全校児童に広めていきたい姿が見られましたので、保護者や地域の皆様にも紹介いたします。

(その1) 公共心、気付きと行動力

ある日のこと、地域の方から「〇〇公園でのことで…」と、電話が入りました。何かと心配しましたが、公園内に散乱していたゴミを、自ら進んで拾い集めていた子どもたちがいたというお知らせでした。こんな子どもたちがいるのだと、たいへん感心されると共に、たくさん褒めてほしいといった内容でした。

みんなで使う公園にゴミが落ちていることを見逃さずに、そして、誰に言われるまでもなく自分から進んで綺麗にしようと行動できたこと、この「気付きと行動力」は、多くの児童の模範となりました。

(その2) 危険予測と危機回避能力

9/1(木)に防災訓練を行いました。掃除時間に地震が発生し、一部火災が発生したという状況設定で行いました。掃除時間は縦割り(1~6年生の協働)活動ですから、地震発生時は必ずしも学級担任が側にいるとは限らない状況です。このとき力を発揮することを期待されるのが高学年です。今回の避難訓練では、一人ひとりが真剣に取り組んだのはもちろんですが、高学年の児童が側にいる低学年児童へ、「こっちへ寄りなさい。」「ガラスから離れてしゃがみなさい。」などと声掛けしている姿が見られました。

高学年としての自覚が芽生え始めています。

(その3) 「挑戦する気持ち」

9/13(火)の全校集会で、本校の卒業生 錦富士関のご努力の様子と「挑戦する気持ち」について、子どもたちに話して聞かせました。校長室からのオンラインで、相撲の取組や稽古の様子を動画で見せたり、大事にしてほしい言葉を伝えたりしました。以下は子どもたちの振り返りの内容です。

- 錦富士さんが三小卒ということが誇らしいです。これからもがんばってください。
- 何もかも絶対にできるようになるか分からないけど、挑戦することが大切だと分かりました。
- あきらめなければいつか成功へつながると分かったので、ぜひやり遂げたいです。
- 錦富士さんの稽古の姿、とても格好良かったです。これからもがんばってください。
- 私は失敗すると直ぐにあきらめてしまうので、「あきらめない」を意識して目標を達成したいです。
- 私も夢をあきらめないで、習い事を一生懸命にして、自分の特技にしていきたいです。
- 今は夢はないけど、夢を探すのをあきらめないで、あってもなくてもいろいろなことに挑戦していきたい。
- 錦富士関が、僕と同じ三本木小学校の出身だと初めて知って驚きました。相撲の大舞台はたいへんだと思いますが、楽しそうでもあります。でも、強い力士や大きい力士と相撲を取るのには恐怖感がありますね。それでもなぜ続けられるのか、教えてほしいです。

○錦富士関さんへ。私は、三本木小学校の児童です。校長先生の話聞いて錦富士関さんも何度も何度も失敗を重ねた上で、今の活躍があるんだなあと思いました。私には美容師になるという夢があります。私も夢に向かって、諦めないで前に進みたいと思いました。

三小の卒業生であるということから、子どもたちは、錦富士関の存在とそのがんばりを身近に感じると共に、これからの自分の励みにすることができたようです。

合唱部 東北大会出場！

【発表後のほっとした様子】

本校の合唱部が、夏から秋にかけ大きな経験を二つしました。

まずは、8/18(木)青森市で開催されたNHK全国学校音楽コンクール青森県予選で、見事金賞を獲得し青森県の代表となりました。そして、9/18(日)宮城県名取市文化会館で開催された「第89回NHK全国学校音楽コンクール東北ブロックコンクール」に出場し、奨励賞を獲得しました。

すべての日程を終えたあと、部長の渡部伊織さんより「奨励賞という結果でしたが、東北大会ではみんなと同じ大会、そして、同じステージに立つことができ嬉しかったです。」といった言葉がありました。合唱部の子どもたちはこの2回のコンクールで、挑戦した人だけが味わえる特別な雰囲気、緊張感、達成感を味わうことができました。

また、合唱部保護者会の皆様にもたくさんのご協力をいただきました。



横断歩道 先ず、『渡りたい』という意思表示

「道路を渡りたいです。」

道路交通法に基づく『交通の方法に関する教則』が数年前に改訂され、横断するときは手を挙げるなどして、運転者に対して『横断する意思』を明確に伝えましょう。となっております。

ただし、「手を上げれば大丈夫！」と思い込んで事故に遭ってしまうといったことも懸念されますので、車がしっかりと停まったかの確認がとても大切です。

以前、本校の学校運営協議会の委員の方から、次のような情報提供がありました。「三小の子どもたちの中には、停まってくれた車に対して会釈をしてくれる子がいる。」「会釈をしてもらったドライバーはよい気持ちになるので、また次も、横断したい人がいたら停まろうという気持ちになる。」といったお話でした。

このお話のように、歩行者にとっても運転者にとってもお互いに気持ちよく、安全な三小学区となるよう、皆様の交通安全へのご協力をお願いいたします。

なお、だいぶ以前は、手を挙げたまま横断歩道を渡っていましたが、現在は、渡る前に手を挙げて意思表示をし、車が止まってくれたら、左右を確認し、手を下ろして渡るように指導しています。

また、9月下旬の台風への対応の際はご協力いただき、誠にありがとうございました。普段より車での送りが多く大変混雑致しましたが、多くの方には校地内の安全にご配慮いただきました。ただ、急な発進や急な加速をしている車が数台見受けられました。これからもお互いの身の安全をおびやかさないよう、校地内での慎重な運転をよろしくお願いいたします。

